

X10c 天文学ネットワーク図書館の新機能

大木健一郎、渡辺香理、木下大輔 (国立天文台)、岡崎篤也、渡辺啓正 (電気通信大)

国立天文台の「天文学ネットワーク図書館」が正式運用を開始後、1年以上になるが、2001年6月現在約270名の天文学関係者がユーザー登録して、このサービスを利用中である。その間に追加された重要な機能は、LANL (Astro-ph) からのプレプリントのユーザー別配信ができるようになったことである。もともと、当ネットワーク図書館サービスを他の電子図書館や ADS サービス等と比較しての利点は、当サービスのサーバーは、常にアクセスして来ているユーザー名を認識して、そのユーザーに最適のサービスが行える点にある。例えば、ADS や Astro-ph の論文アーカイブが更新され、新着論文が追加されたことを当サーバーが察知できるが、その時、直ちに各ユーザーに興味のある論文を自動的に探し出して、メールとユーザー毎の個人書棚に配信を行う機能である。このお陰でユーザーは、いつ更新があるか分からない ADS や他の雑誌サイトを毎日のように検索する必要もなくなった。原理的には発表から 24 時間以内には、自動的に通知を受け取れる。

そして、一度見つけた重要論文は、二度と散逸しないよう個人書棚に保存でき、再利用に便利だ。整理の際に書棚名を階層構造にして分類できる新機能も追加された。

現在までに、全ユーザーに配信された新着論文の総数は、約 1 万 5000 論文である。そのうち、個人書棚に保存されたのは、約 2300 論文。つまり当サービスの利用は、国内の多数の天文学関係者の間で、順調に拡大しつつあることが示されている。

URL: <http://lib.nao.ac.jp>